

研究指導者層の若手研究者のキャリア支援に関する 意識調査報告書(速報)

(社)日本物理学会キャリア支援センター*

平成 21 年 10 月 15 日

本調査は文部科学省の科学技術関係人材のキャリアパス多様化促進事業「物理学の資質を持つ人材活用のためのキャリアパス開発全国展開」の一環として行われました。

1 はじめに

2009年5月22日から6月21日までの1ヶ月間に(社)日本物理学会キャリア支援センターのサーバーに設置したweb形式のアンケートを通じて常勤学術職に就き、教育・研究指導にあたっている方々から、大学院博士後期課程・ポストドクターのキャリア支援に対する意識、ポストドクターの現状に対する認識について調査を行った。

以下にその回答の中から統計的に処理できる項目について簡単にまとめ、報告させて頂く。後日、記入項目間の相関関係や、自由記述欄に寄せられた意見をまとめたものを最終版として改めて報告させていただく。なお、今回のアンケートでは一部未回答でも回答頂いた項目については有効とし、統計処理を行っている。

2 回答者分布

2.1 回答数

表 1: 回答総数および有効回答数

回答総数	未記入	二重回答	ポストドクターからの回答	有効回答数
573	21	8	29	515

*E-mail address : toiawase@ph-career.org

本アンケートに寄せられた回答の総数は573件である。全回答数の内、どの設問に対しても答えを記入していない「未記入回答」が21件、二重回答が8件、ポストドクターからの回答が29件あった。これらを総回答数から除いた515件を有効回答数とした。

ここで、二重回答とは、自由記述欄に記入されている文章の句読点まで含めて全く同じ内容の回答が数秒の間をおかずに寄せられているケースである。これは回答者が回答送信の際に二回クリックしてしまった為に起ったと思われる。また、今回のアンケートでは、ポストドクターとは「名称のいかん、有給無給に関わらず、博士号取得後に常勤の研究職・教育職(任期無し、または任期はあるが再任可能なもの)に就かず、研究・教育に従事する者をポストドクターと総称する」と定義したので、設問に対して「任期付き再任不可」を選択された回答を除外した。

2.2 回答者分布

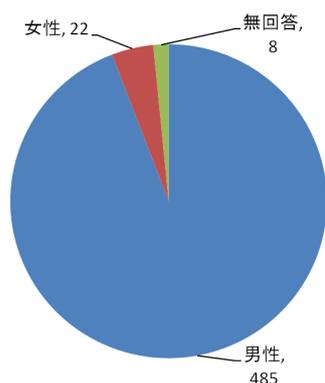


図 1: 男女比

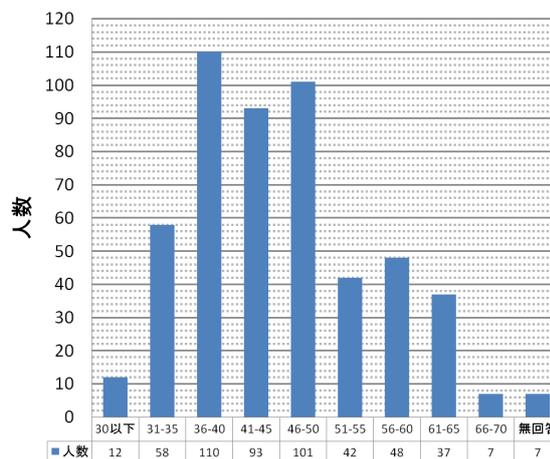


図 2: 世代分布

図 1 に回答者の男女比を示す。全回答者の内、女性は22名となる。これは有効回答数の約4.3%となる。なお、物理学会全体における女性の割合が2%前後である。また、図 2 に回答者の世代分布を示した。横軸は回答者の世代(30歳代後半等)を、縦軸はその回答数を示している。

回答者の職位分布を図 3 に示した。図 3 の中にある「その他」には独立系研究施設(例: 理化学研究所、日本原子力研究所等)における「研究員」や「プロジェクトマネージャー」等が含まれるため回答数が55と大きな数になっている。また、少数ではあるが、高校教員なども「その他」に含まれている。回答者の任期分布を図 4 に示した。今回は上述の通り再任不可能な任期付き職に就いている方は統計から除外差させて頂いた。

図 5 に回答者の所属機関の分布を示す。回答者の数や学生数等から、今回は便宜的に、北海道大学・東北大学・東京大学・東京工業大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学の八大学を「大規模大学」とし、それ以外の国公立大学は「地方大学」とさせてい

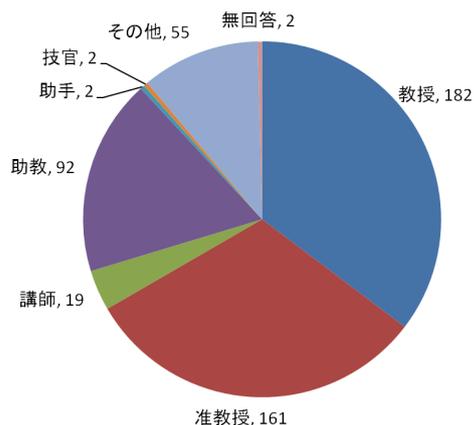


図 3: 職位分布

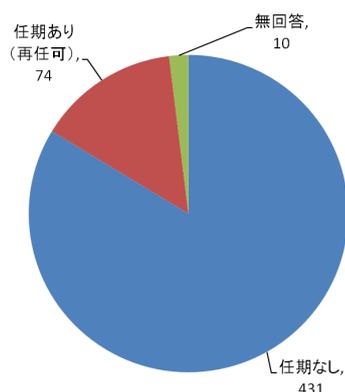


図 4: 任期分布

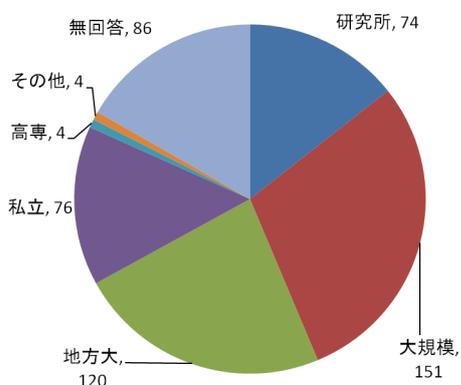


図 5: 所属分布

ただいた。また、「研究所」には高エネルギー加速器研究機構や物質・材料研究機構理化学研究所など独立した研究所からの回答分だけを含め東京大学物性研究所や京都大学基礎物理学研究所など大学に付置されている研究所からの回答分は「大規模大学」に含めた。そして「その他」は海外の研究機関・大学に所属されている学会員や高校教員等からの回答分をさしている。

図 6 に回答者の専攻分野の分布を、図 7 に理論と実験の別について示した。また図 8 では回答者の研究分野別の理論・実験別の比を示した。図 8 において図中棒グラフ内の白抜き文字は回答数を示している。

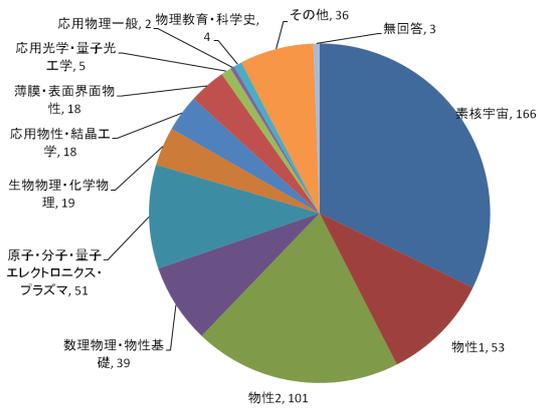


図 6: 分野分布

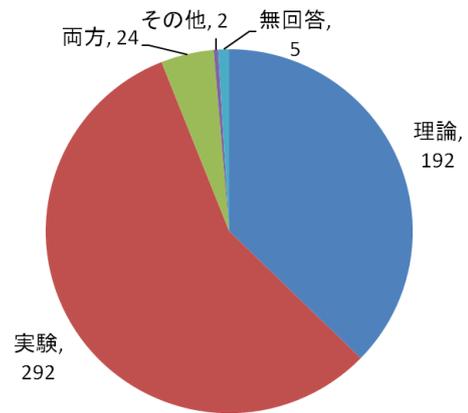


図 7: 理論・実験分布

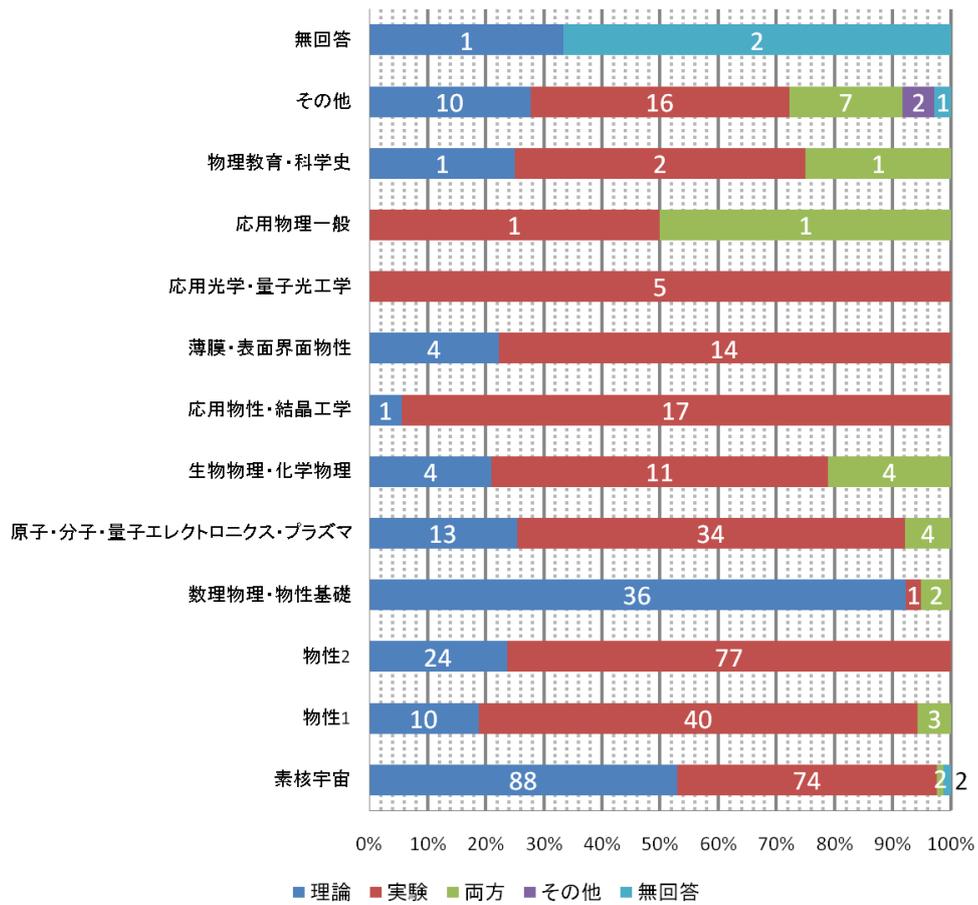


図 8: 分野別理論・実験比 (白抜き文字は回答数)

2.3 大学院生数と就職状況

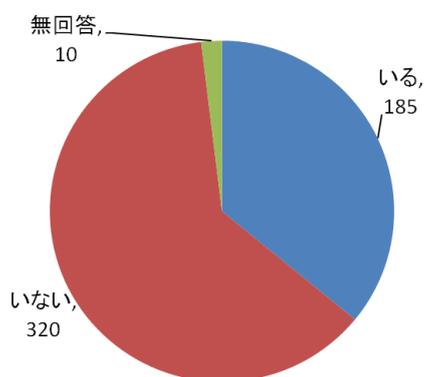


図 9: 直接研究指導をしている大学院生の有無

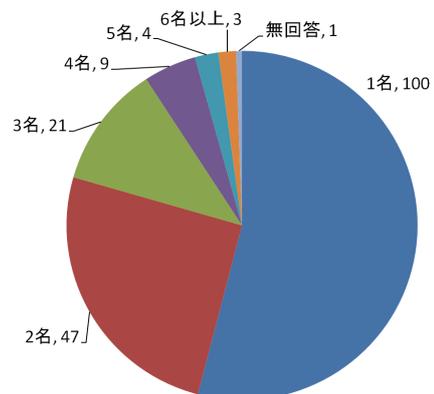


図 10: 図 9 で「いる」とした回答の大学院生数内訳

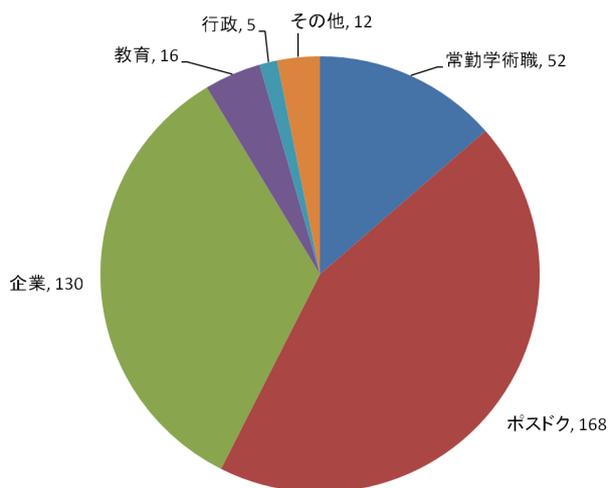


図 11: 過去三年間であなたが主たる指導者として送り出した博士後期課程の大学院生の進路 (計 383 名分)

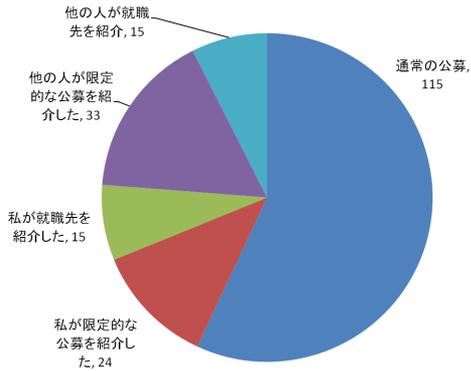


図 12: 常勤職及びポストドクターへの就職方法

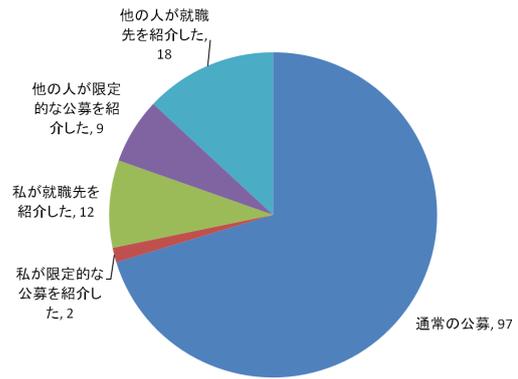


図 13: 企業・教育・行政等への就職方法

2.4 ポストドクター数と就職状況

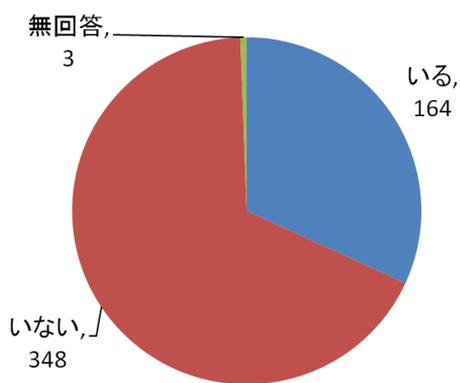


図 14: 共同研究 (研究指導) しているポストドクターの有無

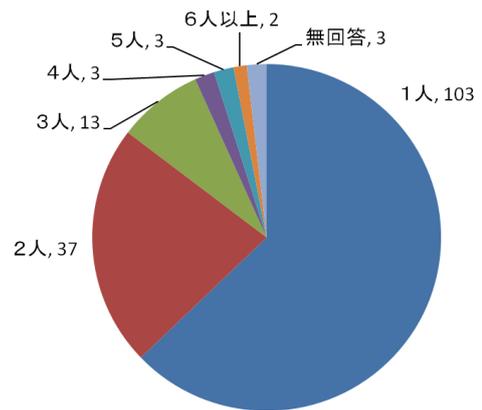


図 15: 図 14 で「いる」とした回答のポストドクター数内訳

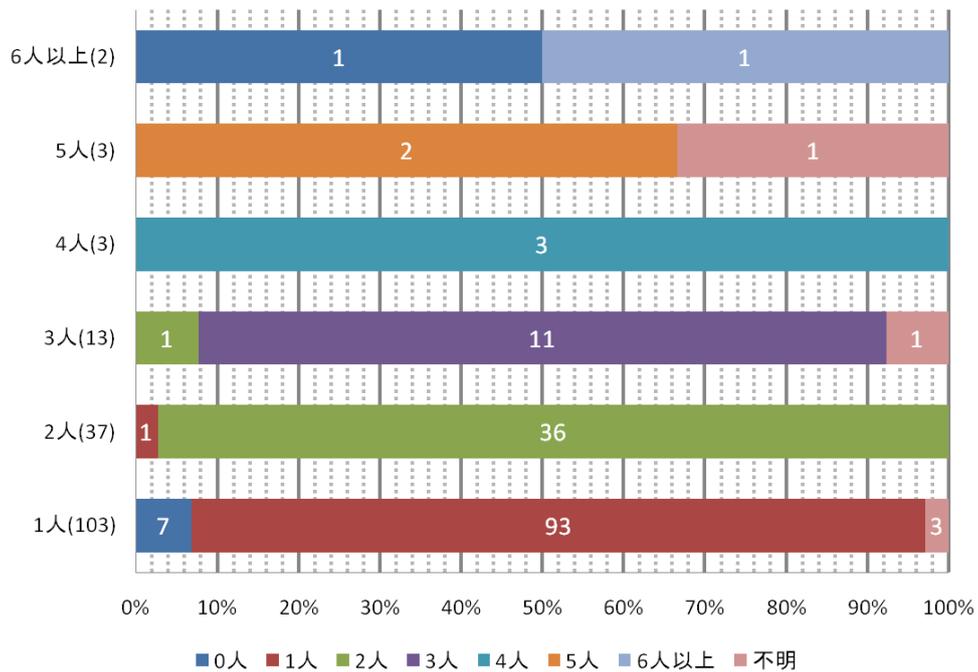


図 16: 有給ポストドクターの数。縦軸は図 15 におけるポストドクター総数、括弧内の数字は回答数。グラフ内の白抜き文字は回答数。「不明」はポストドクター総数よりも有給ポストドクター数と無給ポストドクター数の和が多かった場合。

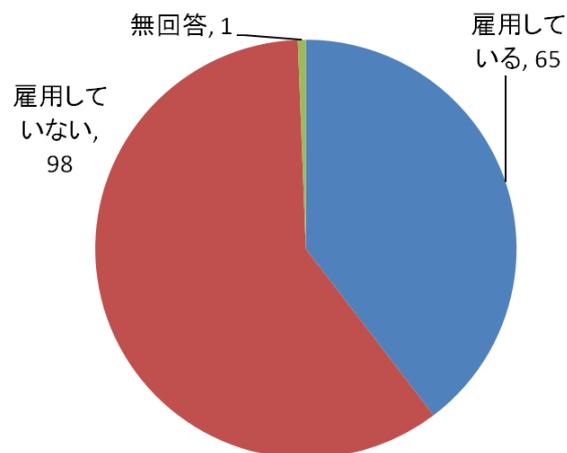


図 17: 競争的資金でポストドクターを雇用しているか。

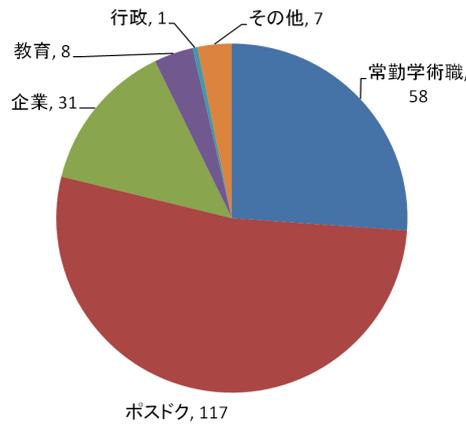


図 18: 回答者が過去三年間に送り出したポストドクター進路分布 (総計 222 名)

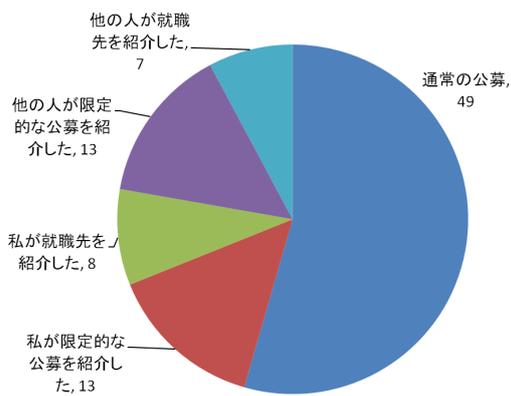


図 19: ポストドクターの常勤職への就職方法

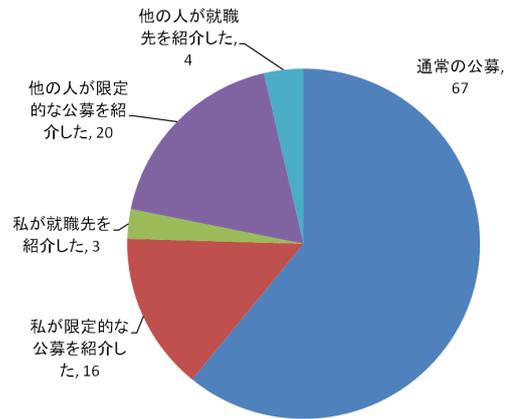


図 20: ポストドクターのポストドクターへの就職方法

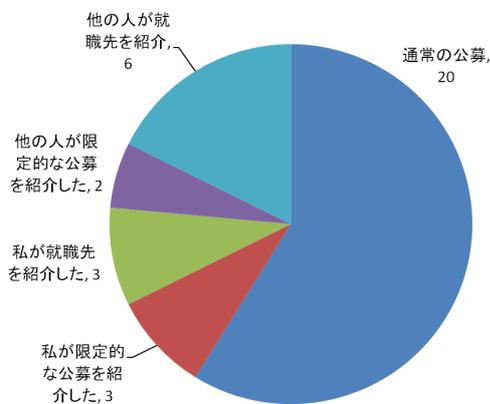


図 21: ポストドクターの企業・教育・行政等への就職方法

2.5 ポストドクター・常勤職採用に際して重視する点

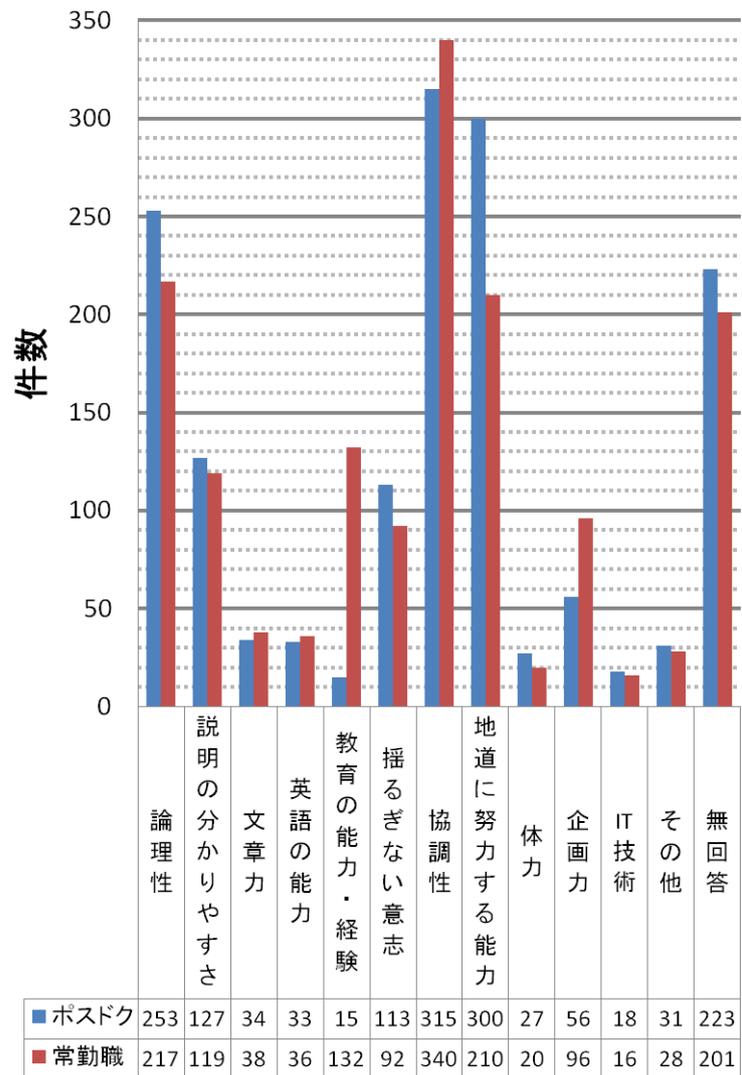


図 22: 常勤職ノポストドクターを雇用する際に専門性以外に重視する点

2.6 就職支援状況

2.6.1 学術職に向けて就職活動している際の支援状況

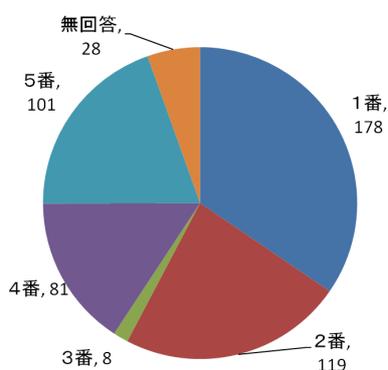


図 23: 学術職に向けて就職活動してる際の支援状況

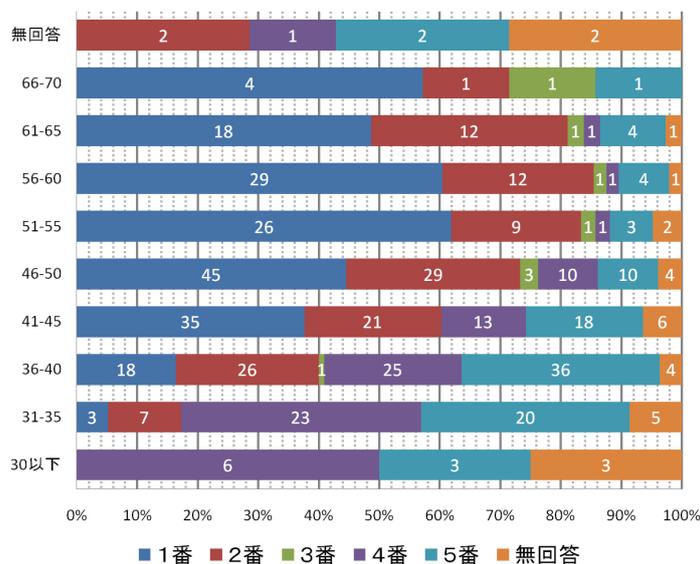


図 24: 世代別、学術職への就職活動に対する支援具合

- 1番：ほぼ全ての者の相談にのり、必要なら推薦書を書いている
- 2番：相談されれば意見し、必要なら推薦書を書いている
- 3番：頼まれれば推薦書は書くが、相談に乗ることはまれ
- 4番：就職についての相談には乗るが、推薦書は書いたことがない
- 5番：相談をうけたことがない
- 無回答

2.6.2 学術職以外に向けて就職活動している際の支援状況

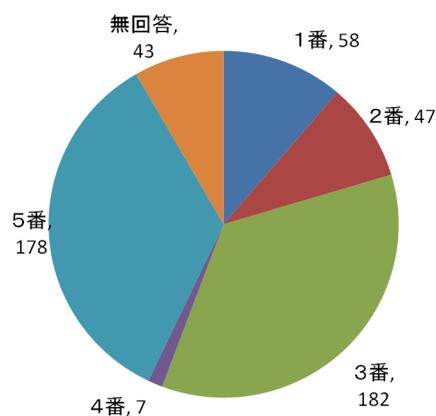


図 25: 学術職以外の職に向けて就職活動してる際の支援状況

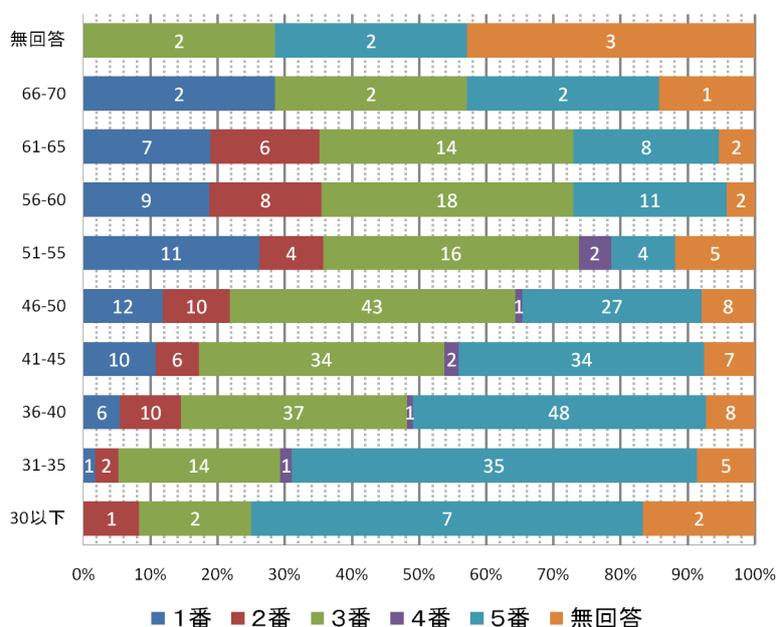


図 26: 年齢別、学術職以外への就職活動に対する支援具合

- 1番：ほぼ全ての者の相談にのり、就職先を紹介している
- 2番：何人かに就職先を紹介している
- 3番：就職について相談には乗っているが就職先は紹介していない
- 4番：就職先を紹介することはあるが、積極的に相談に乗ることはまれ
- 5番：関与したことがない
- 無回答

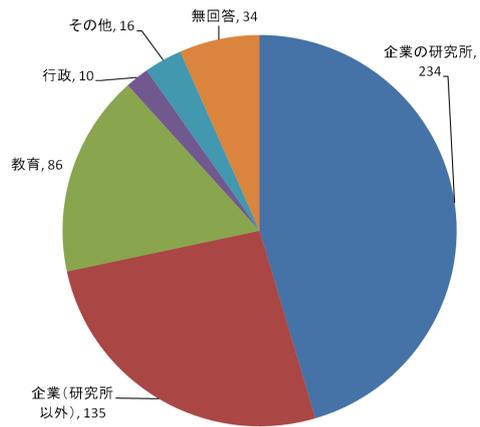


図 27: 学術職以外に就職先として最も可能性のある分野

3 ポストドクター問題について

3.1 回答者のポストドクター経験

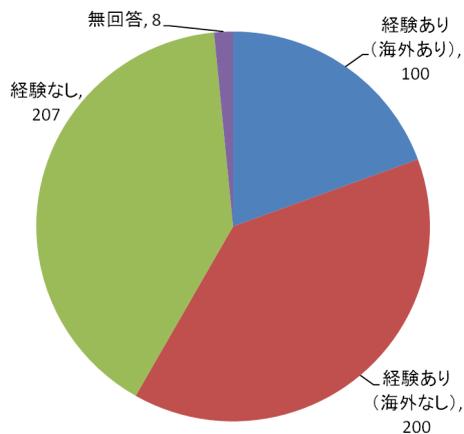


図 28: 回答者のポストドクター経験分布

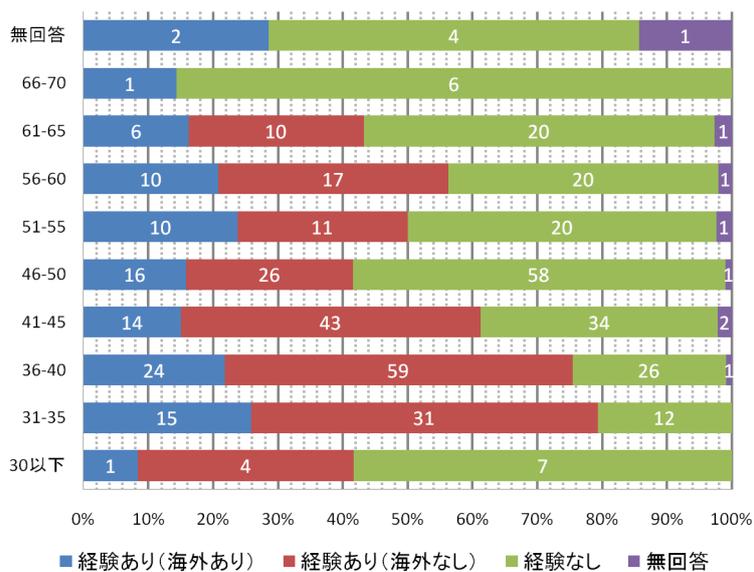


図 29: 世代別ポストドクター経験率 (白抜き数字は回答数)

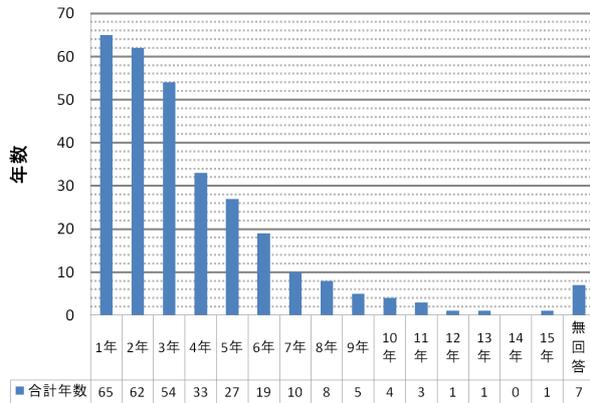


図 30: 回答者のポストドクター経験年数

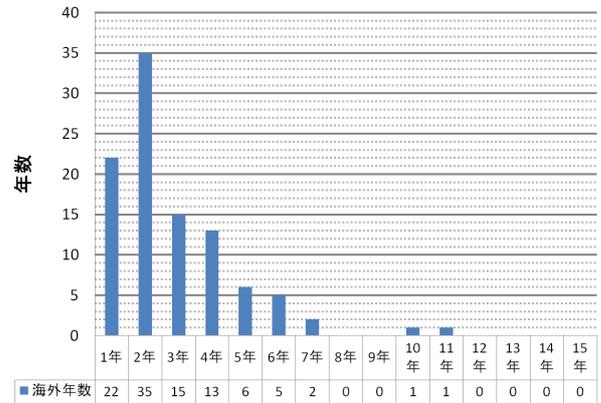


図 31: 回答者の海外でのポストドクター経験年数

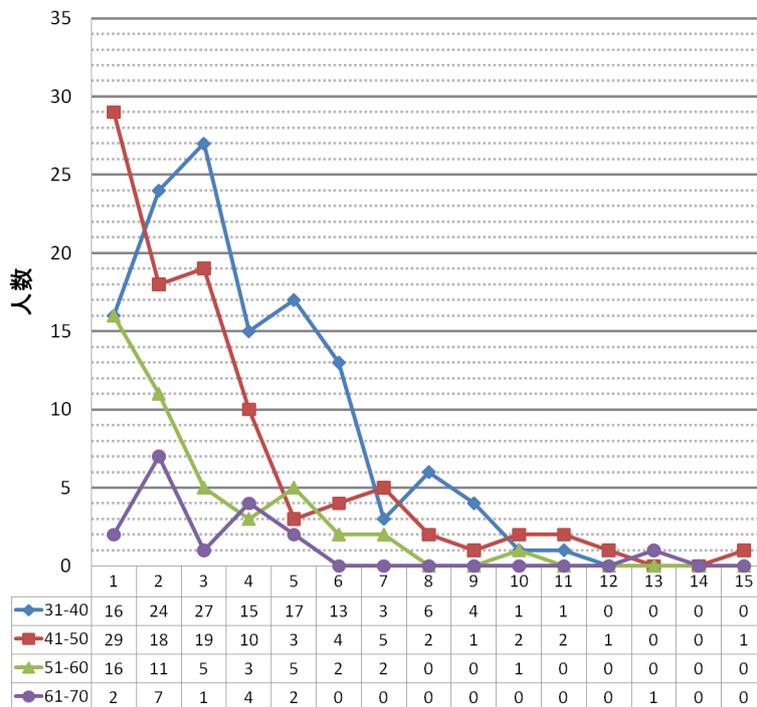


図 32: 世代別ポストドクター経験年数

3.2 ポストドクター問題に対する意識調査

Q. あなたにとってポストドクターとは何ですか？

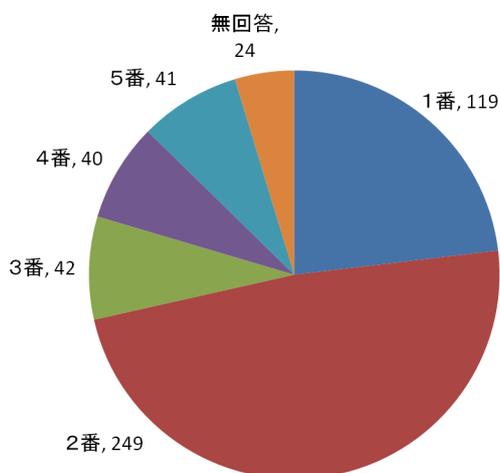


図 33: ポストドクターとは？

表 2: 図 33 に対する選択肢

- 1番：プロジェクトを牽引する強力な共同研究者。必要不可欠な研究者。
- 2番：対等で独立した共同研究者。必要だが不可欠ではない。
- 3番：自分の研究を手伝ってくれる助手的な存在
- 4番：指導が必要な面もある半人前。半分院生のような存在。
- 5番：その他
- 無回答

Q. 研究現場で中心的な役割を担うポストドクターが研究業績をあげながらも、なかなか常勤職に就職できず、将来に不安を抱えたまま年齢を重ねていくケースが多い状況をどう思いますか？

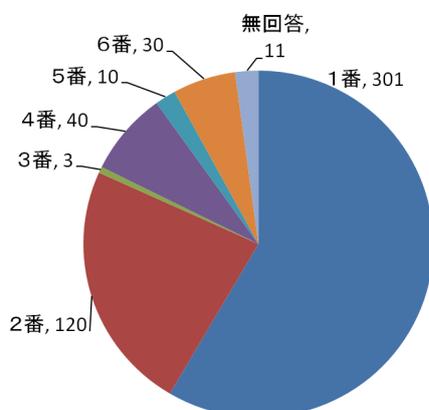


図 34: ポストドクター年数について

表 3: 図 34 に対する選択肢

- 1番：できれば、5年以内に常勤職に就けるように改善すべきだ。
- 2番：10年を越えるのは問題だが、5年程度のポストドクター経験は後で生きるから問題ない。
- 3番：10年以上でも、ポストドクターの経験は重要で、後で必ず意味を持つから頑張るべきだ。
- 4番：状況を知った上で本人の意思で続けていることだから仕方ない
- 5番：長年常勤職に就けない状況だとは思えない
- 6番：その他
- 無回答

Q. 高年齢 (35 歳以上) のポストドクターの中には非常に重要な研究を行いながらも、常勤職に就けない者がいます。どうしてだと思いますか？

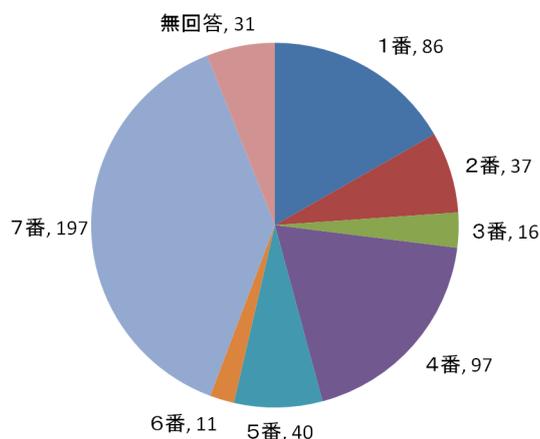


図 35: 高齢者ポストドクターについて

表 4: 図 35 に対する選択肢

- 1 番 : 年齢が高すぎる
- 2 番 : 人柄の問題
- 3 番 : 教育経験がない人は雇えない
- 4 番 : 周囲の常勤職のサポートが足りない
- 5 番 : 実際にはそれほど重要な研究を行っていないのだろう
- 6 番 : そのような存在がいることが信じられない
- 7 番 : その他
- 無回答

設問に対する適切な選択肢がなかった為、「その他」を選んだ回答が 40% 近くにおよんだ。「その他」の意見には「常勤職のポストが少いから」という意見が多数見受けられた。また、「公募が公募になっていないから」という回答も複数あった。

Q. ポストドクターの中には財政的援助を受けることができず、アルバイトや非常勤で生活を支えている者もいます。そのような存在をご存じでしたか？

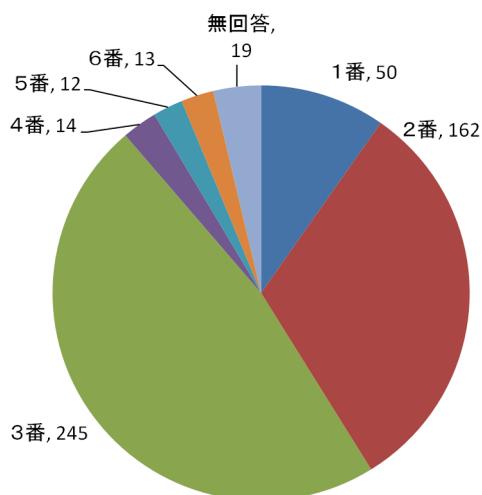


図 36: 非常勤講師で生活するポストドクターについて

表 5: 図 36 に対する選択肢

- 1 番 : かつて自分もそうだった。
- 2 番 : そのような存在が身近にいる。
- 3 番 : そのような存在がいることは知っているが、身近にはいない。
- 4 番 : そのような存在がいるとは知らなかった。
- 5 番 : そのような存在がいることが信じられない。
- 6 番 : その他
- 無回答

Q. ポストドクターによる非常勤講師の存在無しに教育を維持することができない大学が多数ありますが、この現実をどう思いますか？

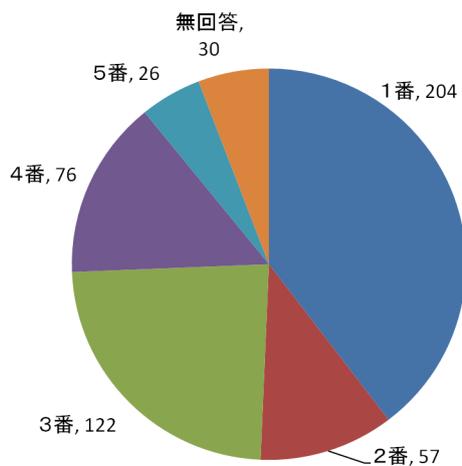


図 37: 非常勤講師に頼る大学について

表 6: 図 37 に対する選択肢

- 1 番 : 非常勤講師を減らし、常勤職を増やすべきだ。
- 2 番 : 非常勤講師に大きく依存せずに、各大学の常勤講師が責任を持つべきだ。
- 3 番 : 非常勤講師に大きく依存しないと成立しない大学が存在することこそ問題だ。
- 4 番 : 各大学にそれぞれの事情があるのだから仕方ない。
- 5 番 : その他
- 無回答

4 まとめ

2009年5月22日から6月21日までの1ヶ月間に(社)日本物理学会キャリア支援センターのサーバーに設置したweb形式のアンケートに対する回答分布について簡単にまとめた。自由記述欄に対する解析まで含めた報告は後日発表する。